

6. 応募内容ファイルについて(1)

例) 基盤研究(C)(一般)に応募する場合

①「研究目的(概要)欄」

審査委員が研究目的を端的に把握できるように、研究目的の概要について簡潔に記述してください。

様式S-1-8 応募内容ファイル(添付ファイル項目)

基盤C(一般) - 1

研究目的

本欄には、研究の全体構想及びその中での本研究の具体的な目的について、冒頭にその概要を簡潔にまとめて記述した上で、適宜文献を引用しつつ記述し、特に次の点については、焦点を絞り、具体的かつ明確に記述してください。(記述に当たっては、「科学研究費助成事業における審査及び評価に関する規程」(公募要領81頁参照)を参考にしてください。)

- ① 研究の学術的背景(本研究に関連する国内・国外の研究動向及び位置づけ、応募者のこれまでの研究成果を踏まえ着想に至った経緯、これまでの研究成果を発展させる場合にはその内容等)
- ② 研究期間内に何をどこまで明らかにしようとするのか
- ③ 当該分野における本研究の学術的な特色・独創的な点及び予想される結果と意義

研究目的(概要) ※ 当該研究計画の目的について、簡潔にまとめて記述してください。

枠内に研究目的の概要を簡潔に
まとめて記述してください。

破線は消さないでください。

6. 応募内容ファイルについて(2)

②「研究計画・方法(概要)」欄

審査委員が研究計画・方法を端的に把握できるように、研究計画・方法の概要について簡潔に記述してください。

基盤C (一般) - 3

研究計画・方法

本欄には、研究目的を達成するための具体的な研究計画・方法について、冒頭にその概要を簡潔にまとめて記述した上で、平成29年度の計画と平成30年度以降の計画に分けて、適宜文献を引用しつつ、焦点を絞り、具体的かつ明確に記述してください。ここでは、研究が当初計画どおりに進まない時の対応など、多方面からの検討状況について述べるとともに、研究計画を遂行するための研究体制について、研究分担者とともに研究計画である場合は、研究代表者、研究分担者の具体的な役割（図表を用いる等）、学術的観点からの研究組織の必要性・妥当性及び研究目的との関連性についても述べてください。

また、研究体制の全体像を明らかにするため、連携研究者及び研究協力者（海外共同研究者、科研費への応募資格を有しない企業の研究者、その他技術者や知財専門家等の研究支援を行う者、大学院生等（氏名、員数を記入することも可））の役割についても記述してください。

なお、研究期間の途中で異動や退職等により研究環境が大きく変わる場合は、研究実施場所の確保や研究実施方法等についても記述してください。

研究計画・方法(概要) ※ 研究目的を達成するための研究計画・方法について、簡潔にまとめて記述してください。

枠内に研究計画・方法の概要を簡潔にまとめて記述してください。

破線は消さないでください。

31

6. 応募内容ファイルについて(3)

③「今回の研究計画を実施するに当たっての準備状況及び研究成果を社会・国民に発信する方法」欄

①～③の3点について、具体的かつ明確に記述してください。（特に「③の本研究の研究成果を社会・国民に発信する方法等」の項目については、「研究成果をどのようにしたら分かりやすく社会・国民に公表(発信)できるのか」という視点で記述してください。）

基盤C (一般) - 5

今回の研究計画を実施するに当たっての準備状況及び研究成果を社会・国民に発信する方法

本欄には、次の点について、焦点を絞り、具体的かつ明確に記述してください。

- ① 本研究を実施するために使用する研究施設・設備・研究資料等、現在の研究環境の状況
- ② 研究分担者がいる場合には、その者との連絡調整状況など、研究着手に向けての状況（連携研究者及び研究協力者がいる場合についても必要に応じて記述してください。）
- ③ 本研究の研究成果を社会・国民に発信する方法等

①～③の点について、具体的かつ明確に記述してください。

32

6. 応募内容ファイルについて(4)

④「研究計画最終年度前年度の応募を行う場合の記入事項」欄

研究計画最終年度前年度応募により、新たに応募することができる研究種目は、「特別推進研究」、「基盤研究」です。ただし、「若手研究(A・B)」の研究課題を基に、応募することができる研究種目は、「基盤研究」のみとなることに留意してください。

基盤C(一般) - 5
(様式の下段)

研究計画最終年度前年度の応募を行う場合の記入事項 (該当者は必ず記入してください (公募要領 21 頁参照))			
※該当しない場合は記入欄を削除することなく、空欄のまま提出すること。			
本欄には、研究代表者として行っている平成 29 年度が最終年度に当たる継続研究課題の当初研究計画、その研究によって得られた新たな知見等の研究成果を記述するとともに、当該研究の進展を踏まえ今回再構築して本研究に応募する理由 (研究の展開状況、経費の必要性等) を記述してください。(なお、本欄に記述する継続研究課題の研究成果等は、基盤C(一般) - 8 の「これまでに受けた研究費とその成果等」欄に記述しないでください。)			
研究種目名	課題番号	研究課題名	研究期間 平成 年度～ 平成 29 年度
当初研究計画及び研究成果等			
該当しない場合は記入欄を削除することなく、空欄のまま提出してください。			
応募する理由			

33

6. 応募内容ファイルについて(5)

⑤「研究業績」欄

・研究業績欄は、各研究種目により、記入内容が異なりますので、詳細は、各研究種目の様式の指示書き等を確認のうえ、年度毎に記入してください。

基盤C(一般) - 6

研究業績

本欄には、研究代表者及び研究分担者がこれまでに発表した論文、著書、産業財産権、招待講演のうち、本研究に関連する重要なものを選定し、現在から順に発表年次を過去にさかのぼり、発表年(暦年)毎に線を引いて区別(線は移動可)し、通し番号を付して記入してください。なお、学術誌へ投稿中の論文を記入する場合は、掲載が決定しているものに限ります。

また、必要に応じて、連携研究者の研究業績についても記入することができます。記入する場合には、二重線を引いて区別(二重線は移動可)し、現在から順に発表年次を過去にさかのぼり記入してください(発表年毎に線を引く必要はありません)。

なお、研究業績については、主に 2012 年以降の業績を中心に記入してください。それ以前の業績であっても本研究に深く関わるものや今までに発表した主要な論文等(10 件以内)を記入しても構いません。

① 例えば発表論文の場合、論文名、著者名、掲載誌名、査読の有無、巻、最初と最後の頁、発表年(西暦)について記入してください。

② 以上の各項目が記載されていれば、項目の順序を入れ替えても可。著者名が多数にわたる場合は、主な著者を数名記入し以下を省略(省略する場合、その員数と、掲載されている順番を○番号と記入)しても可。なお、研究代表者には二重下線、研究分担者には一重下線、連携研究者には点線の下線を付してください。

2016 以降	1. 論文名 麴町太郎、○○○○、▽▽▽▽(他 8 名、1 番目) ××学会誌 9 巻 査読有 51-58 (2016) 研究代表者には二重下線	学術誌への投稿中の論文を記入する場合は、掲載が決定しているものに限ります。
	2. 論文名 □□□□、半蔵門一郎、●●●●●(他 5 名、2 番目) ◎◎学会誌 3 巻 査読有 120-125 (2016)	
2015	3. 論文名 麴町太郎、▽▽▽▽(他 4 名、1 番目) ◇◇論文集 12 巻 査読有 78-86 (2015) 研究分担者には一重下線	線は移動可
	4. 論文名 永田町男、学術仙太(他 7 名、1 番目) ☆☆学会誌 15 巻 査読有 95-101 (2015) 連携研究者には点線の下線	

34

6. 応募内容ファイルについて(6)

⑤「研究業績」欄つづき

研究代表者及び研究分担者の業績が次頁以降にわたる場合は、その後(二重線以下)に連携研究者の業績記入欄を設けてください。

研究業績(つづき)		研究代表者・分担者欄全体の通し番号を付してください。
2013	7. 論文名 <u>麴町太郎、半蔵門一郎、永田町男、学術仙太</u> ××学会誌 5巻 査読有 114-133 (2013)	
	8. 論文名 <u>永田町男、学術仙太(他7名、1番目)</u> ☆☆学会予稿集 査読無 13-15 (2013)	
2012	9. . . . 10. . . .	連携研究者欄は二重線で区別し、研究代表者及び研究分担者の業績を記入した後に欄を設けてください(二重線は移動可。また、該当がない場合には削除してもかまいません)。
	1. 論文名 <u>学術仙太、○○○○(他6名、1番目)</u> ■■ジャーナル 20巻 査読無 21-24 (2015)	
	2. 論文名 <u>学術仙太、◆◆◆◆(他2名、1番目)</u> ▽▽学会誌 4巻 査読有 63-68 (2013)	連携研究者欄内での通し番号を付してください。

6. 応募内容ファイルについて(7)

⑥「これまでに受けた研究費とその成果等」欄

特に必要であれば、今回応募する研究課題の研究代表者または研究分担者が、他の研究課題の研究分担者として参画したものについて記述しても構いません。

平成20年度以前の科研費において研究費の配分を受けない研究分担者として参画したものについて記述しても構いません。

[illegible]

6. 応募内容ファイルについて(8)

⑦「研究計画と研究進捗評価を受けた研究課題の関連性」欄

平成27年度又は平成28年度に、「特別推進研究」又は「基盤研究(S)」の研究代表者として、進捗評価を受けた場合は、記述してください。

※該当しない場合は空欄としてください。

基盤C(一般) - 9

研究計画と研究進捗評価を受けた研究課題の関連性

- ・本欄には、本応募の研究代表者が、平成27年度又は平成28年度に、「特別推進研究」又は「基盤研究(S)」の研究代表者として、研究進捗評価を受けた場合に記述してください。
- ・本欄には、研究計画と研究進捗評価を受けた研究課題の関連性(どのような関係にあるのか、研究進捗評価を受けた研究を具体的にどのように発展させるのか等)について記述してください。

①研究計画と進捗評価を受けた研究課題について、どのように関係があり、研究進捗評価を受けた研究をどのように発展させるのかを具体的に記述してください。

②該当しない場合は、該当ページは削除せず、空欄としてください。

37

6. 応募内容ファイルについて(9)

⑧「人権の保護及び法令等の遵守への対応」欄

研究計画の遂行において、人権保護や法令等の遵守が必要な研究の場合に、どのような対策と措置を講じるのか記述してください。

基盤C(一般) - 10

人権の保護及び法令等の遵守への対応(公募要領4頁参照)

本欄には、研究計画を遂行するにあたって、相手方の同意・協力を必要とする研究、個人情報の取り扱いの配慮を必要とする研究、生命倫理・安全対策に対する取組を必要とする研究など法令等に基づく手続きが必要な研究が含まれている場合に、どのような対策と措置を講じるのか記述してください。

例えば、個人情報を伴うアンケート調査・インタビュー調査、提供を受けた試料の使用、ヒト遺伝子解析研究、組換えDNA実験、動物実験など、研究機関内外の倫理委員会等における承認手続きが必要となる調査・研究・実験などが対象となります。

なお、該当しない場合には、その旨記述してください。

本研究は〇〇なので、倫理委員会等の承認が必要な研究計画には該当しない。

「研究計画・方法(概要)」欄に記述した内容と照らして記述してください。

研究計画を遂行するにあたって「人権の保護及び法令等の遵守への対応」でどのような対策と措置を講じるのかを詳細に記述してください(指示書きのケースは例示列举であることに注意)。

該当しない場合には、「該当なし」と記述してください。

研究経費の妥当性・必要性

本欄には、「研究計画・方法」欄で述べた研究規模、研究体制等を踏まえ、研究経費の算根拠について記述してください。また、研究計画のいずれかの年度において、人件費(設備備品費、旅費、人件費、謝金)が全体の研究経費の90%を超える場合及びその他の費目で、特に大きな割合を占める経費がある場合には、当該経費の必要性(内訳等)を記述してください。

38

6. 応募内容ファイルについて(10)

⑨「設備備品費の明細・消耗品費の明細」欄

何をどれだけ購入するのか、できるだけ具体的に記入してください。

年度毎に線を引いて区分してください。また、年度毎に合計金額を記入してください。

いずれかの年度において、「設備備品費」が全体の研究費の90%を超える場合には、当該経費の必要性を「研究経費の妥当性・必要性」欄に記述してください。

基盤C（一般）－11

（金額単位：千円）

設備備品費の明細			消耗品費の明細	
記入に当たっては、基盤研究（C）（一般）研究計画調書作成・記入要領を参照してください。			記入に当たっては、基盤研究（C）（一般）研究計画調書作成・記入要領を参照してください。	
年度	品名・仕様 (数量×単価) (設置機関)	金 額	品 名	金 額
29	〇〇システム (～～社製 型番 00-00) 一式 (内訳) ・〇×装置 ・□△〇器 ・モニタ用 PC 学振大学	1,500	〇〇〇〇	300
			〇△〇△	200
			☆〇☆〇	50
	計	1,500	計	550
30			〇〇〇〇	200
			〇△〇△	200
			☆〇☆〇	100
	計		計	500
31	記入に当たっては、研究計画調書作成・記入要領を十分に参照してください。 購入しようとする物品が、設備備品に該当するか消耗品に該当するかについては、 各研究機関での取り扱いに従ってください。			

39

6. 応募内容ファイルについて(11)

⑩「旅費等の明細」欄

行き先、期間等、できるだけ具体的に記入してください。

いずれかの年度において、「旅費」または「人件費・謝金」が全体の研究費の90%を超える場合、及び「その他」において特に大きな割合を占める経費がある場合には、当該経費の必要性(内訳等)を「研究経費の妥当性・必要性」欄に記述してください。

基盤C（一般）－12

（金額単位：千円）

旅費等の明細								
記入に当たっては、基盤研究（C）（一般）研究計画調書作成・記入要領を参照してください。								
年度	国内旅費		外国旅費		人件費・謝金		そ の 他	
	事 項	金額	事 項	金額	事 項	金額	事 項	金額
29	打合せ 〇〇大学 2日間	70			▲▲実験補助 5人×4日間	120	～～委託分析	150
	▲▲実験 ☆☆研究所 4日間	150					ホームページ 作成費用	50
	計	220			計	120		200
30	打合せ 〇〇大学 2日間×3回	210				120	～～委託分析	150
	▲▲実験 ☆☆研究所 4日間	150					ホームページ 保守更新費	30
	計	360				120	計	180
31								

「その他」については、設備備品費、消耗品費、旅費、人件費・謝金のほか当該研究を遂行するための経費が該当します。

研究計画調書作成・記入要領に例示を示していますが、例示以外のものでも該当するものについて記入することができます。

「その他」については、設備備品費、消耗品費、旅費、人件費・謝金のほか当該研究を遂行するための経費が該当します。
研究計画調書作成・記入要領に例示を示していますが、例示以外のものでも該当するものについて記入することができます。

40

6. 応募内容ファイルについて(12)

⑪「研究費の応募・受入等の状況・エフォート」欄

研究代表者の応募時点における「(1)応募中の研究費」、「(2)受入予定の研究費」、「(3)その他の活動」について、次のことに留意し、それぞれの状況を記入してください。

- ・「(1)応募中の研究費」、「(2)受入予定の研究費」欄には、科研費のみならず他の競争的資金制度についても記入してください。
- ・複数の研究費を記入する場合は、線を引いて区分して記入してください。
- ・所属研究機関内で競争的に配分される研究費についても、「(1)応募中の研究費」、又は「(2)受入予定の研究費」に記入してください。
- ・所属研究機関内で、研究活動等を職務として行うため一律に配分されるような基盤的経費については、「(1)応募中の研究費」、又は「(2)受入予定の研究費」に記入する必要はありませんが、そのような経費を活用して行う研究活動等のエフォートは「(3)その他の活動」に記入してください。また、科研費の連携研究者として参画している研究課題に係るエフォートは、「(3)その他の活動」に記入してください。
- ・日本学術振興会特別研究員(SPD、PD、RPD)であって、平成29年度の特別研究員奨励費の受給を予定している場合には「(2)受入予定の研究費」に記入してください。なお、日本学術振興会より毎月支給される研究奨励金(研究遂行経費)については、記入しないでください。

41

6. 応募内容ファイルについて(13)

⑪「研究費の応募・受入等の状況・エフォート」欄(研究代表者一人の場合)

研究代表者のみ作成・添付

基盤C (一般) - 13

研究費の応募・受入等の状況・エフォート

本欄は、第2段審査（合議審査）において、「研究資金の不合理な重複や過度の集中にならず、研究課題が十分に遂行し得るかどうか」を判断する際に参照するところですので、本人が受け入れ自ら使用する研究費を正しく記載していただく必要があります。

上段に平成29年度に研究代表者が使用する直接経費の額（分担金とし

- ① 「エフォ」を記入して
② 「応募中
③ 科研費の
④ 所属研究
- て配分する額を含まない。応募中のものは応募額)を記入し、下段に括弧書きで研究期間全体で受け入れ自ら使用する直接経費の総額(予定額)を記入。
- した場合、そのうち当該研究の実施等に必要となる時間の配分率(%)を記入してください。
ては、「計画研究」、「公募」を記入してください。
も記入してください。
- 連携研究者として参画するものは記入不要。

(1) 応募中の研究費

資金制度・研究費名（研究期間・配分機関等名）	研究課題名（研究代表者の氏名）	役割（研究代表者の氏名）	平成29年度の研究経費（期間全体の額）（千円）	エフオー ト (%)	研究内容の相違点及び他の研究費に加えて本応募研究課題に応募する理由（科研費の研究代表者の場合は、研究期間全体の研究費の活用状況）
【本応募研究課題】 基盤研究（C）（一般） （H29～H32）	〇〇〇〇	代表	1,960 (5,000)	15	（総額 5,000 千円）
特別推進研究（H29～H32）	××××	代表	105,420 (256,330)	—	▼▼▼という点で、本申請課題とは異なり、当該研究課題では目的とする

研究分担者がいない場合、同じ金額を記入。

重複応募が可能であっても、重複して採択されることのない種目を記載する場合は「—」を記入。

42

6. 応募内容ファイルについて(14)

⑪「研究費の応募・受入等の状況・エフォート」欄(研究分担者がいる場合)

研究代表者のみ作成・添付

基盤C(一般) - 13

(1) 応募中の研究費					
資金制度・研究費名(研究期間・配分機関等名)	研究課題名(研究代表者氏名)	役割(代表・分担の別)	平成29年度の 研究経費 (期間全体の額) (千円)	エ フ ォ ー ト (%)	研究内容の相違点及び他の研究費に加えて本応募研究課題に応募する理由 (科研費の研究代表者の場合は、研究期間全体の受入額を記入すること)
【本応募研究課題】 基盤研究(C)(一般) (H29~H31)	〇〇〇〇	代表	1,960 (3,200)	15	研究内容の相違点及び他の研究費に加えて本応募研究課題に応募する理由 (科研費の研究代表者の場合は、研究期間全体の受入額を記入すること)
上段に平成29年度に研究代表者が使用する予定の直接経費の額を記入(研究分担者に配分予定の平成29年度直接経費を含まない額)。		研究分担者がいる場合、記入する金額が異なる。 (総額5,000千円)			
下段に研究期間全体の研究代表者が自ら使用する予定の直接経費の額を記入(研究分担者に配分予定の研究期間全体の直接経費を含まない額)。		研究課題全体の直接経費の額(研究代表者の使用予定額と研究分担者の使用予定額を合わせた額)を記入。			
基盤研究(C)(一般) (H29~H31)	□□□□ (半蔵門一郎)	分担	500 (1,000)	5	研究内容の相違点及び他の研究費に加えて本応募研究課題に応募する理由 (科研費の研究代表者の場合は、研究期間全体の受入額を記入すること)
「分担」の場合、「総額」については記入する必要はありません。		研究内容の相違点及び他の研究費に加えて本応募研究課題に応募する理由 (科研費の研究代表者の場合は、研究期間全体の受入額を記入すること)			
新学術領域研究(研究領域提案型)公募 研究(H29~H30)	△△△△	代表	2,000		本申請課題と・・・という点で、目的が異なり、当該・・・する(総額4,000千円)
新学術領域研究(研究領域提案型)の場合には、計画研究、公募研究の別を記入。					

43

6. 応募内容ファイルについて(15)

研究代表者のみ作成・添付

基盤C(一般) - 14

研究費の応募・受入等の状況・エフォート(つづき)					
(2) 受入予定の研究費					
資金制度・研究費名(研究期間・配分機関等名)	研究課題名(研究代表者氏名)	役割(代表・分担の別)	平成29年度の 研究経費 (期間全体の額) (千円)	エ フ ォ ー ト (%)	研究内容の相違点及び他の研究費に加えて本応募研究課題に応募する理由 (科研費の研究代表者の場合は、研究期間全体の受入額を記入すること)
◎◎助成事業(H27~H29) ●●機構	〇△〇△〇	代表	1,000 (3,000)	10	研究内容の相違点及び他の研究費に加えて本応募研究課題に応募する理由 (科研費の研究代表者の場合は、研究期間全体の受入額を記入すること)
応募時点で平成29年度の正確な配分額が分からない場合も、およその金額を記入。		科研費以外の事業については、総額は記入しなくても可。			
◇◇推進費(H28~H29) ◆◆大学内公募資金	□□〇〇□ (永田町男)	分担	200	5	研究内容の相違点及び他の研究費に加えて本応募研究課題に応募する理由 (科研費の研究代表者の場合は、研究期間全体の受入額を記入すること)
特に名称のない研究機関内公募資金等は、当該資金の内容がわかるような名称を記入。		研究分担者等の場合は、括弧書きで研究代表者の氏名を記入。			
(3) その他の活動				55	
上記の応募中及び受入予定の研究費による研究活動以外の職務として行う研究活動や教育活動等のエフォートを記入してください。					
合 計				100	
上記(1)、(2)、(3)のエフォートの合計				(%)	

44

6. 応募内容ファイルについて(16)

特別研究員奨励費の継続課題がある場合

研究代表者のみ作成・添付

基盤C(一般) - 14

研究費の応募・受入等の状況・エフォート(つづき)					
(2) 受入予定の研究費					
資金制度・研究費名(研究期間・配分機関等名)	研究課題名(研究代表者氏名)	役割(代表・分担の別)	平成29年度の研究経費(期間全体の額)(千円)	エフォート(%)	研究内容の相違点及び他の研究費に加えて本応募研究課題に応募する理由(科研費の研究代表者の場合は、研究期間全体の受入額を記入すること)
特別研究員奨励費(H28~H30) 1 6 J 1 2 3 4 5	○△○△○	代表	1,000 (3,000)	70	×××という点で、本申請課題とは異なり、当該研究課題では○○○を目的とする。 (総額 3,000 千円)
特別研究員奨励費の場合には、「種目名」、「研究期間」に加え、「課題番号」もあわせて記入。 日本学術振興会より毎月支給される研究奨励金(研究遂行経費)については、記入しない(含めない)。					
(3) その他の活動 上記の応募中及び受入予定の研究費による研究活動以外の職務として行う研究活動や教育活動等のエフォートを記入してください。				0	
合 計 上記(1)、(2)、(3)のエフォートの合計				100 (%)	

45

6. 応募内容ファイルについて(17)

【その他注意事項】

- 平成29年度公募について、文部科学省及び日本学術振興会ホームページ上に研究計画調書の応募内容ファイルを、関係通知と併せて掲載しています。研究計画調書の応募内容ファイルの作成に当たっては、ホームページから応募内容ファイルの様式をダウンロードして作成してください。
- 例年、提出(送信)された研究計画調書の中に、白紙のページや、他の研究課題の応募内容ファイルが添付されているものが見受けられますが、そのままの状態では審査に付されますので、十分注意してください。
- 研究計画調書は審査資料ですので、極端に小さい字、行間、字間の狭いものなど、読みづらいものは避けてください。
- 電子申請システムによって入力された研究計画調書のデータは来年9月上旬で消去する予定ですので、必要に応じて各機関で保存等行ってください。
※なお、平成28年度公募の研究計画調書は平成28年9月12日(月)で削除する予定です。

46